

学校概要

創立 41 周年	学校長 丸山 邦子	副校長 渡邊 智志	学期 2 学期制	児童・生徒数 478 人
学級数 一般級: 16 個別支援級: 3			主な関係校: 上永谷中学校 永野小学校	

学校教育目標

学校大すき このまち大すき みんながやく永谷の子
 ◎心の内側からわき起こる確かな自信を培います。
 ・学びの基礎・基本を基に、自分の問題を見つけ、意欲的に取り組もうとする子を育てます。【知】・礼儀や規律を大切にし、自他を認め合おうとする子を育てます。【徳】・心と体の健康な生活をつくり、命の大切さを実感する心をもとうとする子を育てます。【体】
 ◎豊かなコミュニケーション力を育てます。
 ・自分の周りや地域に目を向け、人のために役立とうとする子を育てます。【公】・さまざまな人と様々な方法でのコミュニケーションを通して、自分らしさを表現しようとする子を育てます。【関】

学校の特徴

- 教育活動に協力的な地域の中で、物的・人的環境を教材として活用できる。
- 穏やかでのびのびとした児童の特性があり、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 元気にあいさつができ、お互いを認め合いながら豊かな関わり合いができる。
- 教職員一人ひとりが校務分掌を理解し、協力的な雰囲気の中で校務・研究が進んでいる。
- 家庭学習の習慣化が図られていない児童・家庭が少なくない。忘れ物などのために学習に集中できない場合もある。
- 自分の気持ちをうまく言葉で表現できずに困ってしまうケースがみられる。

学校経営中期取組目標

- 子供の実態を見取り、個々の能力に応じた問題解決学習を核に、「アクティブラーニング」の研究と実践を進めます。
- 元気なあいさつを地域の風土にまで高める継続的な取り組みを続けます。
- 自分も友達も大切にすること人権感覚の定着と、学校でも家庭でも健康な生活づくりができる子の育成を進めます。
- 学校でも家庭でも自ら進んで学習・運動・読書に取り組む子の育成を進めます。
- 地域の中で生きていることを自覚し、地域に発信しようとする子の育成を進めます。
- ◇役割を自覚し、それぞれの良さを生かしたチーム力豊かな教職員集団を育てます。

小中一貫教育の取組

上永谷中学校	ブロック	:(上永谷中学校・永野小学校・本校)
9年間で育てる子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己肯定感を高める子 ○ 主体的に学ぶ子 	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り活動を軸に、学級集団だけではなく人とのつながりを築けるようにする。 ・ 幼稚園、保育園、近隣の小中学校、地域との交流を通して、人のつながりや役割を意識できるようにする。 ・ 重点研究のテーマを「主体的に学び、自信をもって表現する子の育成」とし、主体的に問題を解決できるようにする。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	①児童一人一人の実態を見取り、個に応じた教育実践を進めます。 ②児童の意欲を高めた問題解決学習を進めます。	重点研のテーマを「主体的に学び、自信をもって表現する子どもの育成」とし全学級で、子どもの「もっと知りたい。」「なぜだろう?」というような子どもの思いや疑問を大切にしながら、自分で問題を見付けることができるようにする。また、既習事項や生活経験を根拠にして、自分の考えを自信をもって表現することができるような活動を設定する。
豊かな心	①学校、家庭・地域であいさつのできる児童を育てます。 ②人権習慣を中心に自分も相手も大切にできる児童を育てます。	なかよし遠足(全校遠足)、なかよし掃除、給食等、縦割り活動を充実させるとともに、縦割り活動を通して、異学年同士のつながりを築くようにする。保護者、幼保、近隣の小中学校とふれあう活動を充実させるとともに、横浜の時間で出会う人たちとのつながりを生かした学習を展開する。あいさつ運動を通して、地域の中で生きる自分を意識できるようにする。
健やかな体	①学校でも家でも進んで運動しようとする児童を育成します。 ②一人でも規則正しい生活をしようとする児童を育成します。	キラキラタイムを通して、自ら自分の体力を高めようとする意欲をもてるようにする。学校保健委員会の目標に向かい、正しい姿勢を意識して生活できるようにする。養護教諭や栄養士と協力しよりよい生活習慣や食生活について考えることができるような学習を発達段階に応じて行う。
特別支援教育	①一人ひとりの特性を見取り、個別の支援計画を作成・運用します。 ②個性に応じた学習スタイルの工夫をすべてのクラスで進めていきます。	全職員が協力し、夏休みの特別支援教育に取り組む。職員会議や打ち合わせ等で、児童の実態を共有し、個に応じた指導支援を行う。個別支援級の指導を全職員共通理解して行う。通級指導教室教諭や療育センター等専門機関と連携し、子どもの個性を把握し、全職員が個に応じることができるよう研修を行う。
児童生徒理解	①児童支援専任を中心とした、客観的で共感的な児童理解を進めます。	児童支援専任を中心として、全職員で、課題のある子ども、保護者への対応について共有理解を図る。事件・事故を未然に防ぐために児童の状況を把握し、組織的な対応について共通理解を図る。永谷のやくそくを常に見直し、全職員で共通理解を図り、指導にあたる。
地域連携	①地域にあるものや住んでいる方との交流を生かした学習の工夫を進めます。 ②学んだことを地域の方に伝える活動の工夫を進めます。	平戸永谷川クリーンアップや下永谷を歩く会、地域の祭り、防災訓練等、児童と職員が積極的に参加できるようにする。懇話会等で、学校の取組を発信したり、地域の意見を伺うことにより、地域とともに歩む学校づくりの推進をする。学援隊と保護者による見守り活動の充実を推し進める。
人材育成・組織運営	①学校教育目標の実現に向け、校務分掌の役割を自覚し、チームで行動できる教職員集団を育成します。 ②メンターチームの活動を工夫します。	主幹会、教務会、メンターチーム研修などの会を通して、各年代に応じた育成をめざす。それぞれの職員が意欲的に責任をもって校務ができるよう人事を行い、役割を経験させることで育成していく。主幹やミドルリーダーを活用し、数年先を見越した育成を行う。

学校概要

創立	42周年	学校長	副校長	学期	学期制	児童・生徒数	人
学級数 一般級:		個別支援級:		主な関係校:			

学校教育目標

学校大すき このまち大すき みんなながやく永谷の子
 ◎心の内側からわき起こる確かな自信を培います。
 ・学びの基礎・基本を基に、自分の問題を見つけ、意欲的に取り組もうとする子を育てます。【知】 ・礼儀や規律を大切にし、自他を認め合おうとする子を育てます。【徳】 ・心と体の健康な生活をつくり、命の大切さを実感する心をもとうとする子を育てます。【体】
 ◎豊かなコミュニケーション力を育てます。
 ・自分の周りや地域に目を向け、人のために役立とうとする子を育てます。【公】 ・さまざまな人と様々な方法でのコミュニケーションを通して、自分らしさを表現しようとする子を育てます。【開】

学校の特徴

- 教育活動に協力的な地域の中で、物的・人的環境を教材として活用できる。
- 穏やかでのびのびとした児童の特性があり、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 元気にあいさつができ、お互いを認め合いながら豊かな関わり合いができる。
- 教職員一人ひとりが校務分掌を理解し、協力的な雰囲気の中で校務・研究が進んでいる。
- 家庭学習の習慣化が図られていない児童・家庭が少なくない。忘れ物などのために学習に集中できない場合もある。
- 自分の気持ちをうまく言葉で表現できずに困ってしまうケースがみられる。

学校経営中期取組目標

- 子供の実態を見取り、個々の能力に応じた問題解決学習を核に、「アクティブラーニング」の研究と実践を進めます。
- 元気なあいさつを地域の風土にまで高める継続的な取り組みを続けます。
- 自分も友達も大切にする人権感覚の定着と、学校でも家庭でも健康な生活づくりができる子の育成を進めます。
- 学校でも家庭でも自ら進んで学習・運動・読書に取り組む子の育成を進めます。
- 地域の中で生きていることを自覚し、地域に発信しようとする子の育成を進めます。
- ◇ 役割を自覚し、それぞれの良さを生かしたチーム力豊かな教職員集団を育てます。

小中一貫教育の取組

上永谷中学校	ブロック	: (上永谷中学校・永野小学校・本校)
9年間で育てる子ども像	<input type="checkbox"/> 自己肯定感を高める子 <input type="checkbox"/> 主体的に学ぶ子	
自校の具体的取組		

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力		b5
担当		
豊かな心		b6
担当		
健やかな体		b7
担当		
b1		b8
担当		
b2		b9
担当		
b3		b10
担当		
b4		b11
担当		
人材育成・組織運営		b12
担当		

学校概要

創立 43 周年	学校長	副校長	学期	学期制	児童・生徒数	人
学級数 一般級:		個別支援級:	主な関係校:			

学校教育目標

学校大すき このまち大すき みんながやく永谷の子
 ◎心の内側からわき起こる確かな自信を培います。
 ・学びの基礎・基本を基に、自分の問題を見つけ、意欲的に取り組もうとする子を育てます。【知】 ・礼儀や規律を大切にし、自他を認め合おうとする子を育てます。【徳】 ・心と体の健康な生活をつくり、命の大切さを実感する心をもとうとする子を育てます。【体】
 ◎豊かなコミュニケーション力を育てます。
 ・自分の周りや地域に目を向け、人のために役立つようとする子を育てます。【公】 ・さまざまな人と様々な方法でのコミュニケーションを通して、自分らしさを表現しようとする子を育てます。【開】

学校の特徴

- 教育活動に協力的な地域の中で、物的・人的環境を教材として活用できる。
- 穏やかでのびのびとした児童の特性があり、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 元気にあいさつができ、お互いを認め合いながら豊かな関わり合いができる。
- 教職員一人ひとりが校務分掌を理解し、協力的な雰囲気の中で校務・研究が進んでいる。
- 家庭学習の習慣化が図られていない児童・家庭が少なくない。忘れ物などのために学習に集中できない場合もある。
- 自分の気持ちをうまく言葉で表現できずに困ってしまうケースがみられる。

学校経営中期取組目標

- 子供の実態を見取り、個々の能力に応じた問題解決学習を核に、「アクティブラーニング」の研究と実践を進めます。
- 元氣なあいさつを地域の風土にまで高める継続的な取り組みを続けます。
- 自分も友達も大切にすること権感覚の定着と、学校でも家庭でも健康な生活づくりができる子の育成を進めます。
- 学校でも家庭でも自ら進んで学習・運動・読書に取り組む子の育成を進めます。
- 地域の中で生きていることを自覚し、地域に発信しようとする子の育成を進めます。
- ◇役割を自覚し、それぞれの良さを生かしたチーム力豊かな教職員集団を育てます。

小中一貫教育の取組

上永谷中学校	ブロック	:(上永谷中学校・永野小学校・本校)
9年間で育てる子ども像	○ 自己肯定感を高める子 ○ 主体的に学ぶ子	
自校の具体的取組		

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力		c5
担当		
豊かな心		c6
担当		
健やかな体		c7
担当		
c1		c8
担当		
c2		c9
担当		
c3		c10
担当		
c4		c11
担当		
人材育成・組織運営		c12
担当		

振り返り

振り返り

振り返り

学校概要

創立	1周年	学校長	副校長	学期	学期制	児童・生徒数	人
学級数 一般級:		個別支援級:		主な関係校:			

学校教育目標

<p>a2</p> <p>各学校の学校教育目標を記入します。この欄は、29年度、30年度の中期学校経営方針とリンクしています。</p>	<p>学校概要として入力する内容を統一しています。当該年度の4月現在の状況を記入します。「主な関係校」には、小学校は主な進学先の中学校を、中学校は新入学生徒が卒業した主な小学校を記入します。</p>
---	---

学校の特色

学校の現状を分析した結果を記入します。教育活動に積極的に活用できる強み(□)や、何らかの形で改善しなければならない弱み(■)をまとめて記入します。学校経営中期取組目標を設定する際の根拠ともなります。

学校経営中期取組目標

学校教育目標の実現に向け、3年先に実現する学校の姿を、学校長の経営の視点や方針として具体的に記入します。

小中一貫教育の取組

a3	ブロック	: a4	小中一貫教育推進ブロック名を入れ、続く欄にブロック校を全て記入します。
9年間で育てる子ども像	a5	小中一貫教育推進ブロックで最も大切にすることを共有し、「9年間で育てる子ども像」として記入します。	
自校の具体的取組	年度ごとに「9年間で育てる子ども像」を実現するための、小中一貫教育の具体的取組を記入します。		

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	a9	<p>学校経営中期取組目標が具現化するように、各重点取組分野における単年度ごとの具体的な取組内容を「誰が」「何を」「いつ」等が分かるように記入します。この部分のデータは、学校評価報告書の「具体的取組」とリンクしています。</p> <p>学校経営中期取組目標を具現化するにあたり、重点的に取り組む分野を学校ごとに設定します。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「人材育成・組織運営」(特別支援学校は、「センター的機能の取組」を加えて記載。)については、第2期横浜市教育振興基本計画や「横浜版学習指導要領」を踏まえ、市立学校全校で共通の取組分野として設定します。学校運営協議会設置校については、重点取組分野の一つに「学校運営協議会」を設定し、その役割や取組を明確にします(P.19参照)。これらの分野と学校が独自に設定した分野の内容や取組に重なりがある場合は、「確かな学力(学習指導)」のようにまとめて記入してもかまいません。</p> <p>上記以外の重点取組分野については、横浜市が設定する重点取組分野の中から選択して記入しますが、学校独自で設定することもできます。</p> <p>※P.23、24 重点取組分野設定の視点例参照 ※この欄も学校評価報告書とリンクしています。</p>
担当		
豊かな心	a10	
担当		
健やかな体	a11	
担当		
a5	a12	
担当		
a6	a13	設定した重点取組分野を担当する主な校務分掌等を記入します。教職員の参画意識を高めることをねらいとしています。
担当		
a7	a14	
担当		
a8	a15	
担当		

人材育成・組織運営	a16	<p>学校の人材育成・組織運営に関して、3年間の取組目標を設定し、単年度ごとの具体的な取組内容を、「誰が」「何を」「いつ」等が分かるように記入します。</p>
担当		

1 学校概要			
創立 118 周年	学校長 □□ □□	副校長 □□ □□	学期 2 学期制 児童・生徒数 600 人
学級数 一般級: 20 個別支援級: 3		主な関係校: ○○○中学校・□□□中学校	

2 学校教育目標	
○進んで学習に取り組む、自分の考えを深め表現できる子どもを育てます。(知) ○感謝の気持ちや思いやりの心をもって、自他を大切に子どもを育てます。(徳) ○規則正しい生活を心がけ、健康でたくましい子どもを育てます。(体) ○まちとのかかわりを大切に、自ら実践する子どもを育てます。(公) ○人とのコミュニケーションを通して、視野を広げられる子どもを育てます。(開)	

3 学校の特徴	□大きな公園を中心とした豊かな自然と、古くからの商店街が共存する地域にある学校であり、生活科や『横浜の時間』の学習に活用できる材が豊富である。 □保護者・地域からの信頼は厚く、学習ボランティアなどのPTA活動にも協力的である。 □授業づくりに熱心な職員が多く、学び合う姿勢が生まれている。 ■基本的な生活習慣への関心を高める必要がある。 ■学力状況調査の結果からは、学校として基礎・基本の定着に一層取り組む必要があることが分かった。
---------	--

4 学校経営中期取組目標	
○子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。 ・まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。	

小中一貫教育の取組

5 ○○○中 ブロック : ○○○中学校・○○小学校・□□小学校・◎◎小学校	
6 9年間育てる子ども像	○思いやりの心もち、自分に自信をもって生きる子ども ○豊かに学び合い、課題解決に向けて取り組む子ども
7 自校の具体的取組	・「言語活動の充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科・領域においてテーマを意識した授業を展開する。(ブロックで年3回実施のうち、9月〇日) ・昨年度より増えた児童生徒の交流日に、6年生が中学校の合唱コンクールに積極的に参加する。 ・教務主任会や専任会などで得た情報を基に、自校の「学習スタンダード」の改善を進める。

8 重点取組分野	9 取組目標	10 具体的取組
確かな学力(学習指導) 担当 11 学習指導部	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく中で表現力の育成を目指す。	①全学級で「学習スタンダード」を意識した授業展開を図るとともに、チームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指す。②重点研の研究テーマを「まちとともに豊かに学び合う子どもの育成」と設定し、生活科、『横浜の時間』を中心に、主体的に問題解決する中で、自分の言葉で表現する活動を設定する。
豊かな心 担当 人権課題部	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値付けするとともに、子どもの自尊感情を育て、自分を大切にすることを育てる。	①月1回のたてわり集会を充実させると共に、全校たてわり遠足を立ち上げ、学級集団だけではなく異年令同士のつながりを築くようにする。②保護者、地域とふれあう活動を大切にするとともに、『横浜の時間』ではまちで出会う「人」とのつながりを生かした学習を展開する。③自ら進んであいさつする姿を認め、学年に応じた取組につなげていく。
健やかな体 担当 体育健康部	基本的な生活習慣に関する活動を全校で取り組む。また、一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指す。	①「早寝・早起き」を合言葉に規則正しい生活をする姿勢を培い、自らの生活を振り返り、カードに記入しながら継続的に取り組む。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、長縄大会を通して体力の向上に励む。③栄養教諭と連携しながら全学級で食育に関する授業を行う。
児童生徒指導 担当 児童指導部	全職員が「学校のきまり」共有して指導また、コミュニケーションを大切に、いじめの防止・早期発見に努めるようにする。	①これまでの「学校のきまり」を「学習スタンダード」と「生活スタンダード」に分け、わかりやすい表現に直すとともに、全職員で共有して指導に当たる。②児童代表委員会を充実させ、子どもたちの考えたスタンダードを取り入れる。③職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。
地域連携 担当 教育課題部	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努めるとともに、学校運営協議会の設置に向けての準備を行っている。	①○○川クリーンアップ作戦、地域防災訓練等に対して学校が協力できることを考え、児童と職員が積極的に参加できるようにする。②各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、協議会設置に向けた準備を行う。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	交流級を含む一般級と個別支援学級の連携が密になっています。さらに合理的配慮に対する職員の理解を進めている。	①一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に行い、学年通信と個別支援学級通信の連動を図る。②個別支援学級の環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザイン教育について理解する。
人材育成・組織運営 担当 教務部	教職員の専門性が向上するとともに、メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修が計画的に行われている。	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。③週に1回、教務会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	平成28年度の中期学校経営方針の具体的取組欄とリンクしています。	当該年度の振り返りを行い、具体的取組に対する評価結果から見えてきたことを読み解き、今後の方向性について記入します。		確かな学力	平成28年度末に、次年度の具体的取組を記入します、データは平成29年度中期学校経営方針の具体的取組とリンクしています。			確かな学力	平成29年度末に、次年度の具体的取組を記入します、データは平成30年度中期学校経営方針の具体的取組とリンクしています。		
豊かな心	平成中期学校経営方針の項目と対応しています。2年目以降、分野の変更をする場合は、報告書にて行います。平成28年度の中期学校経営方針の具体的取組欄とリンクしています。	自己評価結果と小中一貫教育推進ブロック内相互評価を踏まえ、各重点取組分野における当該年度末の達成状況をA～Dの4段階で評定します。(ブルダウンリストより選択) A:十分達成 B:概ね達成 C:努力必要 D:改善必要		豊かな心	当該年度の学校評価報告書の内容を踏まえ、そこから考える次年度の重点取組分野を当該年度中に記入します。(取組は変更しなくてもかまいません。)			豊かな心			
健やかな体				健やかな体				健やかな体			
人材育成・組織運営				人材育成・組織運営				人材育成・組織運営			
ブロック内相互評価後の気付き	小中一貫教育推進ブロック内相互評価を踏まえ、その後の校内での気付きを記入します。特別支援学校は、外部委員による評価を記入します。			ブロック内相互評価後の気付き				ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	具体的取組に対する自己評価結果について、学校関係者から出された評価の主な意見を集約して記入します。 ※学校運営協議会設置校は、学校運営協議会の自己評価結果を除いた内容を記入します。			学校関係者評価				学校関係者評価			
学校経営中期取組目標	学校経営中期取組目標に示した内容に対して、3年間の位置付けの中での当該年度の達成状況を総括して記入します。			学校経営中期取組目標				学校経営中期取組目標			

振り返り

振り返り

振り返り

平成28年度				平成29年度				
1 重点取組分野	2 具体的取組	3 自己評価結果	4 総括	8 重点取組分野	9 具体的取組			
確かな学力 (学習指導)	①全学級で「学習スタンダード」を意識した授業展開を図るとともに、チームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指す。②重点研の研究テーマを「まちとともに豊かに学び合う子どもの育成」と設定し、生活科、『横浜の時間』を中心に、主体的に問題解決していく力を育成する。	①学習の始まりと終わりの挨拶を全学級で統一した結果、学習時間と休み時間の区別がしっかりと付くようになった。T・Tに関してはまだ部分的な実施に留まっている。②生活科、『横浜の時間』において、問題解決の場面を設定することができた。	B	確かな学力 (学習指導)	①「学習スタンダード」をもとに、全授業において本時の単元名とめあてを板書する。チームティーチングを算数以外の教科に拡大し、基礎・基本の定着を目指す。②重点研のテーマは継続し、生活科、『横浜の時間』を中心に、子どもの気付きを生かした単元構想から問題解決的学習を展開する。			
豊かな心	①月1回のたてわり集会を充実させるとともに、全校たてわり遠足を立ち上げ、学級集団だけではない人とのつながりを築くようにする。②保護者、地域とふれあう活動を大切にするとともに、『横浜の時間』ではまちで出会う「人」とのつながりを生かした学習を展開する。③自ら進んであいさつする姿を認め、学年に応じた取組につなげていく。	①たてわり活動では、全校遠足に向けた準備会を数回もち、班内でのつながりができた状況で遠足に行くことができた。②〇〇川クリーンアップ作戦には、多くの児童が参加した。また『横浜の時間』では、まちの「人」とのつながりを意識して学習に取り組んだ。③あいさつを進んで行う姿がみられるようになった。	A	豊かな心	①たてわり活動では、年間計画を見直し、全校遠足と集会の運動を図る。②生活科、『横浜の時間』で出会ったまちの「人」のリストを作成し、全職員でよさや特色を共有する。③児童委員会と話し合いながら「あいさつ週間」を立ち上げるとともに、学級ごとにめあてをつくり、意欲的に取り組むために何ができるが話し合う。			
健やかな体	①「早寝・早起き」を合言葉に規則正しい生活をする姿勢を培い、自らの生活を振り返り、カードに記入しながら継続的に取り組む。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、長縄大会を通して体力の向上に励む。③栄養教諭と連携しながら全学級で食育に関する授業を行う。	①各家庭の協力のもと、休業中に行った「生活振り返りカード」は一定の成果を上げた。継続をのぞむ声が聞かれた。②長縄大会に向けて各学級が継続して取り組んだ。③食育に関する授業を全学級で行い、学年に応じた指導を行った。PTA活動にも広げてほしいとの声が上がっている。	B	健やかな体	①「生活振り返りカード」を中心に「早寝・早起き」の習慣を発信するとともに、授業を通してよさを学ぶ。②長縄大会は継続して行う。また「短縄」に関するチャレンジカードを作成し、体力の向上に励む。③栄養教諭と連携した食育に関する授業を継続するとともに、栄養教諭による講演をPTA活動で行い、保護者にも食育の大切さを伝える。			
児童生徒指導	①これまでの「学校のきまり」を「学習スタンダード」と「生活スタンダード」に分け、分かりやすい表現に直すとともに、全職員で共有して指導に当たる。②児童代表委員会を充実させ、子どもたちの考えたスタンダードを取り入れる。③職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	①②「学習スタンダード」と「生活スタンダード」を分かりやすくし、内容を共有して指導に当たった。児童の考えたスタンダードも取り入れた。③職員会議内の児童理解の内容は定例化した。児童の状況は、全職員で共通理解し、指導に当たった。	B	児童生徒指導	①「学習スタンダード」と「生活スタンダード」の見直しを進めるとともに、専任会や教務主任会において、ブロック内の小学校同士でスタンダードの共有を行う。②児童の状況を全職員で把握するとともに、学期ごとに関連した児童理解研修を取り入れる。			
地域連携	①〇〇川クリーンアップ作戦、地域防災訓練等に対して学校が協力できることを考え、児童と職員が積極的に参加できるようにする。②各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、協議会設置に向けた準備を行う。	①〇〇川クリーンアップ作戦には多数の児童が参加し、大きな成果を上げた。また地域防災訓練は、学校の避難訓練と連動して行った。②学校運営協議会の意義と役割の周知を図ることができた。地域からも設置に際しての要望やアドバイスを受けた。	A	地域連携	①地域、保護者、関係機関と連携しながら学校運営協議会の年度内開催に向けて、準備を行う。②〇〇川クリーンアップ作戦への協力を継続して行う。また、避難訓練と連動した地域防災訓練を行い、消防署と連携しながら防災教育を行う。			
特別支援教育	①一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に行い、学年通信と個別支援学級通信の運動を図る。②個別支援学級の環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザイン教育について理解する。	①各学年の打合せに個別支援学級担任が定期的に参加し、情報共有が密になった。②夏季休業中に個別支援学級の環境整備を職員作業で行い、ユニバーサルデザイン教育に配慮した環境整備の実際を学んだ。	B	特別支援教育	①一般級と個別支援学級の連携強化を継続するとともに、特別支援コーディネーターを中心とした特別支援委員会を定期的に開催し、情報共有を進める。			
人材育成・組織運営	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、必要に応じてミドルリーダーが講師となつて月1回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。③週に1回、教務会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。	①月1回の活動では、校内ミドルリーダーを講師に迎え、多彩な研修を行った。②情報機器やソフトウェアを導入するに当たった研修会を行い、操作の共有化を行った。③教務会、学年主任会は定例化し、情報が確実に連絡できるようになった。	A	人材育成・組織運営	①メンターチームでは、校内ミドルリーダーに加え、ブロック内のミドルリーダーを講師に迎え、研修を行う。②情報機器を活用し、打ち合わせ内容を共有する。③教務会、学年主任会の司会を輪番にし、参加者全員で学校運営していく場を確保する。			
5 ブロック内相互評価後の気付き	・「子ども像」を共有したことにより、子どもの成長を同じ視点からとらえることができた。授業研では「言語活動の充実」というテーマを設定したことで、視点を絞った意見交換を行うことができた。 ・教務主任会では、各行事の確認の他に各校のスタンダードがそろっていないことが話題となった。来年度に向けて検討していくことが確認された。会議会場をもちまわりすることで、各学校の状況を把握することができ、相互評価への視点をもつこともできた。 ・合唱コンクールへの6年生の参加が実現できたことがよかった。今後も継続していきたい。				ブロック内相互評価後の気付き			
6 学校関係者評価	・地域行事への児童の参加が増えたことは大変よかった。学校と保護者、地域が一体となって子どもの成長を見守ることができている。防災訓練を学校の避難訓練と一緒に行ったこともよかった。防災意識の向上は学校と保護者、地域の協力が不可欠である。今後も充実させていきたい。 ・栄養教諭が全学年で行った食育の授業はよかった。この内容は保護者に伝えていくことが必要ではないだろうか。PTAとして協力できることはしていきたいと考える。 ・学校が行っているよい取組を、もっと発信していく必要があるのではないだろうか。				学校関係者評価			
7 学校経営中期取組目標振り返り	・「まちとともに歩む学校づくり」をテーマに掲げながら、日々の授業、学校行事、地域行事が連携して進み始めることができた。3年後の120周年に向けて着実に実績を積み上げていきたい。 ・基礎・基本の定着については今後も課題であり、引き続き取り組んでいきたい。問題解決的学習の充実については、重点研との運動を図り、まちの「人」と一体となった単元を立ち上げていきたい。 ・学校運営協議会の設置に向けて、大きく前進した一年であった。来年度中の委員会開催に向けて最終調整を進めていく予定である。				学校経営中期取組目標振り返り			